# 第１学年　道徳科学習指導案

令和元年９月２６日（木）　第５校時

１　主題名　こまっているともだちに　　内容項目［Ｂ　友情、信頼］

２　ねらい　主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気付き、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。
教材名　「くりの　み」　（出典　学研教育みらい「みんなの道徳　１年」）

３　主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容について

小学校第１学年及び第２学年の指導の観点は、「友達と仲よくし、助け合うこと。」と示されている。これは、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。また、これは、「第３学年及び第４学年」での「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」、「第５学年及び第６学年」の「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解を深めながら、人間関係を築いていくこと。」へとつながっていく。

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、世代が同じもの同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考え方などを交え、豊かに生きる上での大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。

児童にとって、友達関係は、最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことができるように指導することが大切である。また、異性についても互いに理解し合いながら人間関係を築いていくことが必要である。

第１学年及び第２学年においては、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活を共にしながら、一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。

指導に当たっては、特に身近にいる友達と一緒に、仲良く活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかをしても、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにする。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よく助け合おうとする心情を育んでいけるように指導したい。

（２）これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、休み時間になると外に出て、男女仲良く元気に活動している。また、縦割り活動や学校行事、2 年生との学校探検等を通して、学年を超えた交流が深められてきている。学級の中では、困っている友達がいると優しく声をかけたり、手伝ったりする姿も見られた。高学年との交流では、優しく面倒を見てもらったり、好きな遊びを一緒にしてもらったりする中で、優しくされることの心地よさを味わっている。しかし、様々な場面で自分の思いを通そうとするあまり、相手の気持ちを考えて行動することは、まだできていない。

生活科では、水鉄砲や砂遊び、しゃぼん玉遊びなどを通して、みんなで遊ぶことの楽しさを味わうことができた。また、作った道具を快く友達と貸し借りをし、楽しさを共有する様子が見られた。

国語科では、「おむすび　ころりん」や「おおきな　かぶ」の音読発表のために、班の友達と役割を分担し、話し合い、工夫して活動する中で、友達と学習することの楽しさを味わっていた。しかし、体育科の「走の運動遊び」などでは、走る順番や、用具の並べ方などで意見がぶつかり合い、折り合いがつけられなくなるような場面もしばしば見られた。

学級活動「お楽しみ集会をしよう」では、学級会を開き、自分達でやりたい遊びを話し合い、決定したことをもとに集会を行い、友達と共に助け合い、協力して楽しく活動する経験をした。しかし、話し合いの中で、自分がやりたい遊びにしか賛成意見が言えなかったり、遊びの中で、自分の思い通りにならないことに対して苛立ったりと、自己中心的な幼い姿も見られた。

以上のことをふまえ、この授業を通して、友達に助けられたときの気持ちを考え、身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気付き、困っているときには、互いに助け合おうとする思いやりの心情を育てていきたい。

本主題に関わる実態調査の結果は以下の通りである。

①あなたは、お友達と仲よくしていますか。

はい　　１１人　　いいえ　　０人

②お友達と一緒に活動して、楽しかったことはありますか。

はい　　１１人　　いいえ　　０人

③どんなことが楽しかったですか。（複数回答）

・ドッジボールをしたこと　３人
・おにごっこをしたこと　　２人
・サッカーをしたこと　　２人
・なわとびをしたこと
・ブランコをしたこと
・ドッジボールで当てるのが楽しい
・体育のマット遊び
・一緒に体を動かすこと
・図書室や校庭で一緒に過ごしたこと
・生活科の学校探検
・一緒に折り紙をしたこと

・６年生と遊んだこと

④あなたはお友達とけんかをしたことがありますか。

はい　　９人　　いいえ　　２人

⑤どんなことでけんかをしましたか。（そのときどんな気持ちになりましたか。）

・ボールの取り合い。３人（いやな気持ち）（いらいらした。）（悪かったな。）
・作った飛行機を勝手に使われた。（いやな気持ち）
・帽子を引っ張られた。（いやな気持ち）
・遊びに入れてもらえなかった。（悲しい）
・いっしょに遊んでいて、遊びたいことで意見が分かれて言い争いになった。（いやな気持ち）
・注意をして、相手を怒らせてしまった。（悲しい）
・遊ぶ約束を守ってもらえなかった。（いやな気持ち）

⑥どのようにして仲直りしましたか。

・目が合ってにっこりした。２人
・謝ってくれた。２人
・自分から謝った。２人
・お互いに謝った。
・返してくれたから気持ちが温まった。
・仲直りできない。（約束を守ってくれないから、声をかけにくい。）

⑦お友達がいてよかったと思うのは、どんなときですか。（複数回答）

・みんなで遊んでいるとき（１人より楽しい）６人
・いっしょに遊べることがうれしい。
・学校でお友達といっしょにいられるのが楽しい。
・他の学年の友達と遊ぶのが楽しい。
・ボールをゆずってもらったとき
・転んだとき、保健室に連れて行ってもらった。２人
・優しくしてもらったとき
・友達に助けてもらったとき
・心配ごとがあったとき、相談にのってくれた。
・けんかしても仲直りできる。
・みんなで勉強すると頭が良くなる。２人
・一緒に勉強すると分からないことも分かるようになる。
・みんなで勉強するといろいろなことが分かる。
・一緒に勉強するのが楽しい。
・友達がいるといろいろなことができる。
・１人の方が好き。（静かだから）

⑧お友達を助けたことはありますか。

はい　８人　　いいえ　３人

⑨どうして助けたのですか。

・困っている子を助けるのは当たり前だから。
・友達と読みたい本が一緒だったからゆずってあげた。
・鼻血が出ていてかわいそうだったからティッシュをかしてあげた。
・けがをしていてかわいそうだったから保健室に連れて行った。
・転んだ友達が、血が出ていたから保健室に連れて行った。２人
・転んだ友達に手を貸してあげた。
・つまずいた友達が心配だったから、「大丈夫？」と声をかけた。
・友達が忘れ物をして困っていたから貸してあげた。
・友達がけんかをして困っていたから、一緒にどうすればいいか考えた。

⑩助けた後、どんな気持ちになりましたか。

・うれしい気持ちになった。２人
・自分も同じ本を読みたかったけれど、友達が喜んでくれてよかった。
・友達が嬉しそうだったから、自分も嬉しくなった。
・すっきりした。２人
・いい気持ちになった。
・ほっとした。
・わからない。

上記のアンケート結果から、クラス全員が、友達と仲良くしており、友達と活動することを楽しいと感じていることが分かった。友達と一緒に遊んだり、体を動かしたりすることを楽しいと感じているようだ。

「あなたはお友達とけんかをしたことがありますか。」の質問に対しては、９人の児童が「けんかをしたことがある。」と答えている。日常の些細なことからからけんかになっており、そのときの、不快感や悲しさを味わっている。また、同じ理由でけんかをした児童でも、「いらいらした。」と怒りを感じた児童もいれば、「悪かったな。」と反省する気持ちをもった児童もいた。

「どうして仲直りできましたか。」の質問に対しては、けんかをしたことがある９人の児童のうち、８人が、なんらかの仲直りできた理由を答えているが、１人は、「仲直りできない。」と答えている。「約束を守ること。」に対しての本人の価値意識が高く、約束を守れないことは、許し難い行為のようだ。

「お友達がいてよかったと思うのは、どんなときですか。」の質問の答えからは、多くの児童が友達と仲良く過ごすことの心地よさ、一緒に勉強する楽しさを感じていることが分かる。また、困ったときに友達と助け合えることの良さを感じている児童もいる。しかし、「１人の方が好き。」と答えている児童もいる。普段の様子をみると、人と関わること、自分の思い通りにならないことに対して、煩わしさを感じているようである。

「お友達を助けたことをはありますか。」の質問では、８人の児童が「はい」と答えている。助

けた理由の多くは、「かわいそうだったから」、「困っていたから」など、友達を心配する理由を挙げている。また、友達を助けるのに理由などなく、当たり前のことと考える児童もいた。そして、助けたときの気持ちよさも多くの児童が味わっていることが分かった。しかし、3 人の児童は「友達を助けたことがない。」と答えている。本時を通して、３人の児童にも、友達と助け合うことの大切さを感じ取らせたい。

本時では、友達とけんかをしても、友達の気持ちを考え、仲直りできるように、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達とどのような関係を築いていくことが大切なのか、自分自身の行動をみつめさせ、友達と仲よく助け合おうとする心情を育んでいけるようにしたい。

（３）教材の特質や活用方法について

〈教材分析表〉

主題名　こまっているともだちに

教材名　「くりの　み」　（出典：学研教育みらい「みんなのどうとく　１年」）

ねらい　主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気付き、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。

【スタートの条件・情況】

・主人公･･･きつね　○寒い北風の吹く日、おなかをすかせた２ひきは、それぞれ食べ物をさがしにいく。　・うさぎ

《話題につなげたい場面》　《動き、気持ちの変化、児童の反応、キーワード、他＊おさえるべきこと》　《話題の柱》

きつね　　うさぎ

**さむいきたかぜのふく日、２ひきはおなかがすいて食べ物をさがしにいく。**

①きつねがどんぐりをかくした場面

**たくさん**落ちているどんぐり「しめた。これはいいぞ。」

**おなかいっぱい食べた。**

かくす

・おなかがすいたら自分だけで食べたい。
・だれにも渡したくない。
・うさぎさんに見つからないようにしよう。

きつねは、どんな気持ちでどんぐりをかくしたのでしょう。

**「なんにもなくて、はらぺこです。」**　対照的　**「それは　かわいそう。じゃ、これをどうぞ。」**

・うさぎにあげたくない。
・ひとりで全部食べたい。

**＊自分本意に考える心の弱さをもつきつね**

**くりのみをにぎりしめる。**

**くりのみをきつねにわたす。**

**「２つ　見つけたので、１つ　あげます。」**

・おなかがすいているだろう。
・友達だから分けてあげよう。
・２つ食べたいけど、きつねさんがかわいそう。

㊟うさぎはどんな気持ちで、くりを１つ分けてあげたのでしょう。

②きつねがくりのみをにぎりしめると、なみだをぽろっとこぼした場面

・うさぎさん、ありがとう。　・うさぎさん、ごめんね。
・うさぎさんのくりのみは二つしかないのに、その一つを分けてくれるなんてすごいな。
・ぼくがおなかがすいていたのを心配してくれて、やさしいな。
・ぼくは、なんてことをしちゃったんだろう。

**＊うさぎの優しさと自己中心的な自分に気付くきつね。**

**なみだをぽろっとこぼす**　**＊後悔の気持ちをおさえる**

きつねは、うさぎにもらったくりのみをにぎりしめ、なみだをこぼしたとき、どんな気持ちだったでしょう。

③くりのみをうさぎからもらった場面（役割演技）

**（教師）「２つ見つけたので１つあげます。」**

| (児童) | (教師) |
|---|---|
| 「くりを分けてくれてうれしいよ。ありがとう。」 | 「どういたしまして。よろこんでくれてうれしいよ。」 |
| 「うさぎさん、本当はぼくもどんぐりをみつけたんだ。うそをついてごめんね。」 | 「いいよ。話してくれてありがとう。」 |
| 「うさぎさん、ぼくのどんぐりを分けてあげるからね。」 | 「きつねさん、ありがとう。」 |
| 「今度は一緒に食べ物を探しにいこう。」 | 「うん。そうしましょう。」 |

この後、きつねとうさぎはどんな話をしたでしょう。きつねになって、話をしましょう。

学習課題

・助けてあげる。　・自分ができることならやってあげる。
・どうしたら助けられるか考える。　・その子の気持ちを考えてあげる。

困っている友達がいたら、どうするとよいでしょう。

本教材は、友達に助けられたときの気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。どんぐりを見つけたにも関わらず、それを落ち葉で隠したり何も見つからないとうそをついたりするきつねと、二つしかないくりのみのうちの一つをきつねに渡すうさぎの姿が、対比的に描かれている教材である。

自分のことしか考えていないきつねと、困っている友達を助けようとするうさぎの姿から、友達とどのような関係を築いていくことが大切なのかを考えさせることができる教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

①きつねがどんぐりをかくした場面

どんぐりをおなかいっぱい食べた後、落ち葉で隠したときの気持ちを考えさせることで、自己中心的なきつねの心の中を知ることができる。しかし、ただの悪いきつねとしてではなく、だれにでもある心の弱さと受け止めて話し合わせる。

②きつねがくりのみをにぎりしめ、なみだをこぼした場面

きつねの涙にどんな思いが込められているか考えさせることで、うさぎの優しさを知り、自己中心的な自分の行動を後悔する気持ちを共感的に捉えさせる。そして、自分を助けてくれる友達の素晴らしさに気付かせる。

③役割演技を通して、児童の価値理解を深める場面

きつね役とうさぎ役になって役割演技を行うことで、友達と助け合うことの大切さを実感させるとともに、困っている友達がいたらどうすればよいか、考えることができるようにする。

以上の理由から、本主題を設定した。

４　研究主題との関連

| 研究主題<br>自分を見つめ、よりよく生きようとする子どもの育成<br>―考え、話し合い、主体的に学ぶ授業を目指して― |
|---|

⇩

| 目指す児童像 | |
|---|---|
| ○正しく判断する子 | ○約束やきまりを守る子 |
| ○思いやりの心をもち仲よく助け合う子 | ○生命を大切にし元気に過ごせる子 |

**仮説と手立て**

【仮説１】道徳の時間において自分の心を見つめて表現したり、友達と共に話し合ったりする活動を充実させることにより、自分の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるであろう。

（仮説１に対する手立て）

①　学習過程の工夫（導入の工夫）

導入で冬の森の映像を流し、冬の森がとても寒いこと、食べ物がないことなど、物語の背景を押さえることで、教材への興味を高めるとともに、道徳的価値について考えやすくする。

②学習過程の工夫（学習課題の取り上げ方）

教材についての話合いを十分にした後に、学習課題を提示することで、道徳的価値についての多面的・多角的な考えが導き出せるようにする。

③話合い活動の工夫（役割演技）

展開の後半に役割演技を取り入れ、主人公に自分自身を投影させながら心情を考えさせることで、より主体的・対話的で深い学びとなるようにする。

④表現活動の工夫

書く活動を取り入れ、本時の話合いを振り返り、一人一人が学習課題に対して答えを導き出せるようにする。そしてねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。

授業後は、「ともだちいっぱい」（友達がいてよかったと思ったことを絵や文で書く活動）を継続して行い、身近な友達と仲よく助け合おうとする実践意欲が高められるようにする。

＊参考資料…「わたしたちの道徳」Ｐ７４「ともだちとなかよく」

【仮説２】道徳の時間を家庭や地域社会に発信すれば、学校の取組と家庭・地域社会の意識の一本化が図られ、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が高まっていくであろう。

（仮説２に対する手立て）

①道徳授業シラバスの作成

保護者に授業を公開する際、授業内容をより明確にし、授業のねらいや児童に身に付けさせたい資質や能力、態度を理解してもらうために、道徳授業シラバスを作成する。

②道徳授業シラバスの活用

道徳授業シラバスに保護者の感想を記入してもらい、保護者の思いや願い、家庭での語り合いを日常生活の中で生かすことができるようにする。

③道徳通信によるフィードバック

学期末に道徳通信を配付し、授業の様子や児童の考えを家庭にフィードバックすることで今後の実践意欲につながるようにする。

５　他の教育活動との関連

（４月　生活科）
「がっこうだいすき」
・２年生と一緒に学校を探検し、安心してこれからの学校生活を送ることができるようにする。

（６月　生活科）
「なつだ　あそぼう」
・夏の自然を利用して、友達と工夫して遊ぶことを通して、自分達の生活を楽しくすることができるようにする。

（７月　学級活動）
「お楽しみ集会をしよう」
・仲間と共に助け合い、協力して活動することの楽しさを味わうことができるようにする。

（４月　日常）
「はじめての給食」
・６年生に助けてもらいながら、友達と協力して準備や片付けができるようにする。
・クラスの友達と給食を食べる楽しさを味わうことができるようにする。

（５月　運動会）
・友達と力を合わせて頑張って得た達成感を共有できるようにする。

（日常）
「帰りの会」
・１日を振り返って、「今日のよかったこと」を発表し、毎日友達と様々な活動をすることの楽しさを実感させる。

**（９月）本時**
**「くりの み」**
**・身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気付き、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。**

（９月　生活科）
「遠足」
・２年生と助け合って、学校外での活動を楽しむことができるようにする。

（１０月　生活科）
「下忍フェスティバル」
・２年生と協力して、お祭りの準備や進行ができるようにする。

（１２月 学級活動）
「お楽しみ会をしよう」
・話し合ったことをもとに、友達と工夫して仲良く活動し、友情を深めることができるようにする。

（２月　道徳）
「二わのことり」
・寂しい思いをしているであろう友達の気持ちを考えて、相手の立場を理解し思いやって行動することの大切さに気付き、友情を深めていこうとする心情を育てる。

（日常）
「ともだちいっぱい」
（わたしたちの道徳Ｐ７４）
・友達に優しくしてもらったこと、助けてもらったこと、友達と仲よくして楽しかったことなど、友達がいてよかったと思ったことを絵や文で書き、それらを掲示することで、道徳的価値への意識を高める。

家庭・地域との連携

授業公開の際に「道徳授業シラバス」を配付し、授業のねらいや内容の理解を図り、家庭での語り合いの機会を設けていただく。また、「わたしたちの道徳」Ｐ７４「ともだちと　なかよく」（ダウンロードしたものを配付）を家庭でも読んでいただくように促す。そして、授業終了後に保護者の方たちに感想用紙を記入していただき、家庭での道徳教育の意識付けを図る。また、授業後の保護者の感想を紹介し、家庭でも道徳的な実践意欲の向上への意識付けを図る。「彩の国の道徳」（家庭用）から、子育ての目安「３つのめばえ」（他者との関係）Ｐ５６について紹介し、家庭での道徳教育の啓発をする。

6　評価の視点

〈物事を多面的・多角的に考えている様子〉

・役割演技で助けてもらったときのきつねの心情を考えることを通して、助け合うことの大切さを多面的・多角的に考えている。

〈道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子〉

・友達と助け合うためにどうしたらよいか、自分との関わりで考えている。

7　展開

| 段階 | 学習活動<br>○主な発問・補助発問<br>◎中心発問 | 予想される児童の反応 | ・指導上の留意点<br>☆評価の視点 | 時間<br>資料 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | 1　教材「くりのみ」について知り、物語の背景を想像する。<br>○これから冬になる森は、どんな様子でしょう。<br><br>・登場人物、条件、情況について知る。<br>○この森に、きつねとうさぎがやってきます。2 匹は友達です。でも、食べ物がなくて困ってしまいます。2 匹はそれぞれ食べ物をさがしにいきました。 | ・寒そう。<br>・食べ物がなさそう。<br><br>【登場人物】　きつね（主人公）　うさぎ<br><br>【条件・情況】<br>寒い北風の吹く日、おなかをすかせた２ひきは、それぞれ食べ物をさがしにいく。 | ・物語の背景を押さえることで、教材への興味を高めるとともに、道徳的価値について考えやすくする。 | ５分<br>映像資料<br>風の音 |
| 展開 | 2　教材「くりのみ」の前半部分の読み聞かせを聞く。<br><br>○きつねの気持ちを考えながら、しっかり聞きましょう。<br><br>3　きつねの気持ちを中心に話し合う。<br>○きつねは、どんな気持ちでどんぐりをかくしたのでしょう。 | ・おなかがすいたらじぶんだけで食べたい。<br>・だれにも渡したくない。<br>・うさぎさんにみつからないようにしよう。 | ・ペープサート劇で教材提示する。<br><br>・きつねの気持ちを考えながら聞かせる。<br><br>・寒い北風の中、やっと見つけたどんぐりなので、隠しておくことは当然の行為であることを共感的に捉えさせる。 | ２分<br><br>場面絵短冊<br><br>５分 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 展開 | 4　後半の読み聞かせを聞く。<br>○お話の続きを聞きましょう。<br>・「なんにもなくてはらぺこです。」と言ったきつねにうさぎはどんな気持ちで、くりを１つ分けてあげたのでしょう。 | ・おなかがすいているだろう。<br>・友達だから分けてあげよう。<br>・２つ食べたいけど、きつねさんがかわいそう。 | ・やっとみつけたくりのみをくれたうさぎの気持ちも考えさせることにより、友達を助けようとするうさぎのやさしさに気付かせる。 | ５分 |
| | 5　きつねの気持ちを中心に話し合う。<br>○きつねは、うさぎにもらったくりのみをにぎりしめ、なみだをこぼしたとき、どんな気持ちだったでしょう。 | （感謝）<br>・うさぎさん、ありがとう。<br>（反省）<br>・うさぎさん、ごめんね。<br>（尊敬）<br>・うさぎさんのくりのみは２つしかないのに、その１つを分けてくれるなんてすごいな。<br>・ぼくがおなかがすいていたのを心配してくれて、やさしいな。<br>（後悔）<br>・ぼくはなんてことをしちゃったんだろう。<br>・うさぎさんのことを考えてあげればよかった。 | ・うさぎも同じ立場なのに、自分のことを心配してくれるうさぎに対して、自分のことしか考えられないきつねの心の弱さに気付かせる。 | ５分<br><br>場面絵<br>短冊 |
| | 6　その後のきつねとうさぎのやり取りを想像して、役割演技を行う。<br>◎なみだをぽろっとこぼしたきつねは、この後どんな話をしたでしょう。きつねになって話をしましょう。 | | | 13 分<br><br>場面絵<br>短冊<br>お面 |

うさぎ（教師）２つ見つけたので１つあげます。

きつね（児童）

「くりを分けてくれてうれしいよ。ありがとう。」（感謝）

「うさぎさん、本当はぼくもどんぐりをみつけたんだ。うそをついてごめんね。」　（反省）

「うさぎさん、ぼくのどんぐりを分けてあげるからね。」（今後の生き方・助け合い）

「今度は一緒に食べ物を探しにいこう。」（今後の生き方・友情）

うさぎ（教師）

「どういたしまして。よろこんでくれてうれしいよ。」

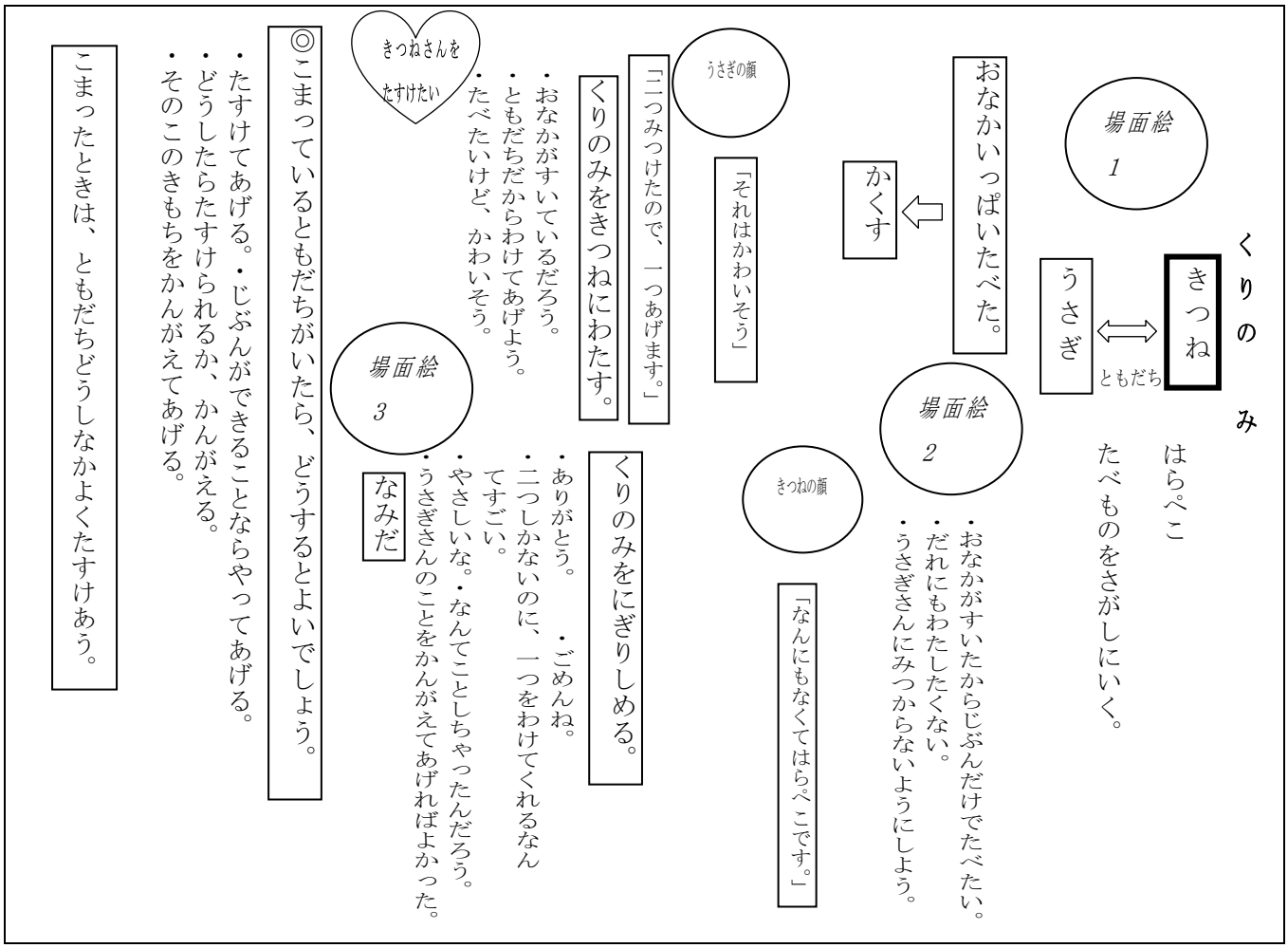
「いいよ。話してくれてありがとう。」

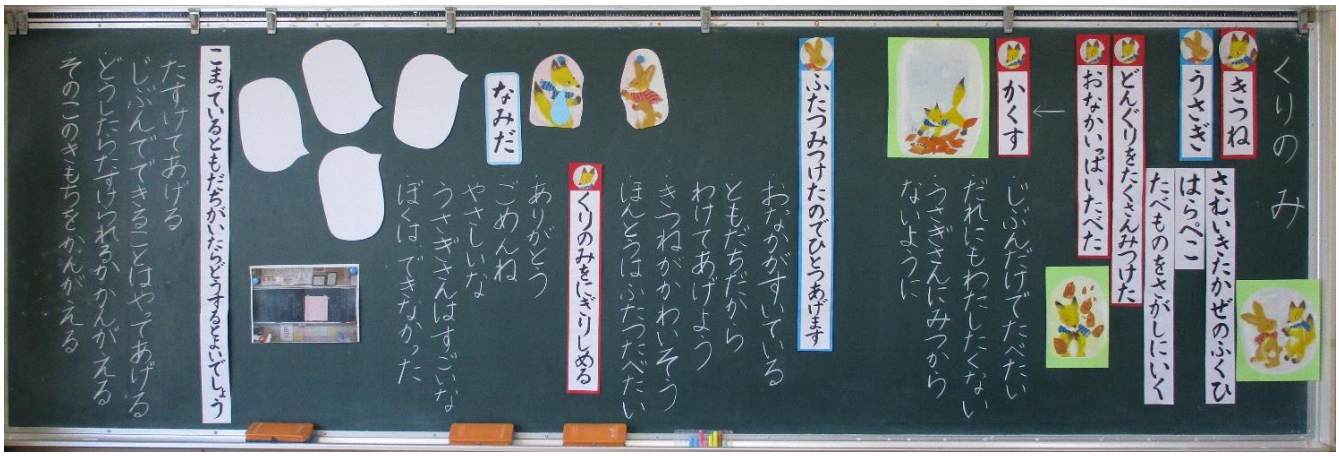
「きつねさん、ありがとう。」

「うん。そうしましょう。」

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 展開 | ○友達の発表を聞いて、どう思いましたか。 | ・ありがとうを言われるとうれしくなる。<br>・きつねさんが、うさぎさんに本当のことを話せてよかった。<br>・２ひきは、これからもっと仲よくできると思う。 | ☆役割演技で助けてもらったときのきつねの心情を考えることを通して、助け合うことの大切さを多面的・多角的に考えている。<br>・演技をした児童や他の児童に感想を聞きながら、温かい雰囲気で演技ができるようにする。 | |
| 終末 | 学習課題<br>困っている友達がいたら、どうするとよいでしょう。<br><br>７　課題に対して自分の考えをもつ。<br>○困っている友達がいたら、どうするとよいでしょう。これからの生活で、できることを考えましょう。<br><br>８　教師の話を聞く<br>○友達がいてよかったと思ったことをかいて、教室に貼っていきます。これからも友達の輪を広げていきましょう。 | ・助けてあげる。<br>・自分ができることならやってあげる。<br>・どうしたら助けられるか考える。<br>・その子の気持ちを考えてあげる。 | ・友達のために自分は何ができるか、新たな自分の思いについて考えさせ、実践の意欲化を図る。<br><br>☆きつねの行動と重ねて自分自身を振り返り、困っている友達がいたら、どうすればよいか、自分との関わりで考えている。<br><br>・「ともだちいっぱい」（友達がいてよかったと思ったことを絵や文で書く活動）を継続して行い、身近な友達と仲よく助け合おうとする実践意欲が高められるようにする。 | 10分<br>ワークシート<br><br>ともだちいっぱいコーナー<br><br>ともだちカード |

8　板書計画


くりのみ
きつね
ともだち
うさぎ
はらぺこ
たべものをさがしにいく。
場面絵 1
おなかいっぱいたべた。
かくす
場面絵 2
・おなかがすいたからじぶんだけでたべたい。
・だれにもわたしたくない。
・うさぎさんにみつからないようにしよう。
きつねの顔
「なんにもなくてはらぺこです。」
うさぎの顔
「それはかわいそう」
「二つみつけたので、一つあげます。」
くりのみをきつねにわたす。
・おなかがすいているだろう。
・ともだちだからわけてあげよう。
・たべたいけど、かわいそう。
きつねさんを たすけたい
場面絵 3
くりのみをにぎりしめる。
・ありがとう。　・ごめんね。
・二つしかないのに、一つをわけてくれるなんてすごい。
・やさしいな。・なんてことしちゃったんだろう。
・うさぎさんのことをかんがえてあげればよかった。
なみだ
◎こまっているともだちがいたら、どうするとよいでしょう。
・たすけてあげる。・じぶんができることならやってあげる。
・どうしたらたすけられるか、かんがえる。
・そのこのきもちをかんがえてあげる。
こまったときは、ともだちどうしなかよくたすけあう。


くりのみ
きつね
さむいきたかぜのふくひ
うさぎ
はらぺこ
たべものをさがしにいく
どんぐりをたくさんみつけた
おなかいっぱいたべた
かくす
じぶんだけでたべたい
だれにもわたしたくない
うさぎさんにみつからないように
ふたつみつけたのでひとつあげます
おなかがすいている
ともだちだから
わけてあげよう
きつねがかわいそう
ほんとうはふたつたべたい
くりのみをにぎりしめる
ありがとう
ごめんね
やさしいな
うさぎさんはすごいな
ぼくはできなかった
なみだ
こまっているともだちがいたらどうするとよいでしょう
たすけてあげる
じぶんでできることはやってあげる
どうしたらたすけられるかかんがえる
そのこのきもちをかんがえる